

日々あらた

No.18

2023年1月1日発行

編集：広報委員会

明けまして おめでとう ございます

本年もよろしくお祈いします

心地良い 心意気

小布施地区理事 久保田 勲

「会員同士の交流機会が少ないよね」、「会員を増やしたい!」、「何かやろうよ」が、昨年春に認識された地区役員の強い思い。

「今年は小布施六斎市が復活するようだ」の情報に飛び付き、「よし、出店しよう」とよびかけたら、三人の班長が快く賛同くれ動き出す。

「広報活動だけではなく、収穫祭だから何か販売しよう」と、役員全員がほぼ全会員に「六斎市への参加と農産物の提供の可否」を、事務局だよりの配布と共に尋ね回った。

会員の収穫した野菜や栗やリンゴなど、シルバー農園の村山早生ごぼうや田中理事長のシャインマスカットは、びっくりするような安さと安心感で飛ぶように売れた。

紙コップの山盛りのブドウはヒット商品。

売りながら、シルバー人材センターの存在や「会員は、皆元気ですよ」と自己アピールを忘れなかった。

「小布施に移ったらシルバーに入りたい」、「掲示ポスターのキャッチフレーズに感銘しシルバーに入る」と帰った方、地元ケーブルテレビ局のインタビューを受けたりで、

広報活動にも手応えは感じた。

「初参加だから、何が有っても勉強だ」と「提供された農産物は売れ残さない」の心意気が、この上ない好天も呼び? 幸いした。

参加してくれた皆さんの「楽しかった」の声、「来年もやりたいね」、「村山早生ごぼうのような小布施ブランドを作りたい」等の意見が出て、初参加の事業を締めくくった。



研修視察で受けた刺激

須坂地区理事 山口 幸枝



私がシルバー人材センターに入会させて頂き何年になるでしょうか。

農園作業に参加したく入会しました。

入会時の説明は上の空（反省しています）でしたが、活動に参加する中で少しずつ勉強し、見聞を深めてきました。

昨年、突然理事のお話を頂いた時には大変驚きましたが、当センターをより広く深く知る良い機会との思いでお受けしました。

当初、理事会に上って来る桁数の多い数字には悩まされましたが、多少慣れてきて理解出来るようになってきました。

毎月理事へ配布される広報誌「月間シルバー人材センター」は他のセンターを知る良い機会になっています。（福祉会館に寄贈するなどの方法で会員の皆さんにも読んでもらえるようにしていきたいと考えています）

令和3年8月号月刊誌センターだよりの、魅力ある女性部会への挑戦「がマダム1000」誕生（蒲郡市）が目にとまりました。

私にとって初めての理事会研修旅行がその「蒲郡シルバー人材センター」に決まり、「がマダム1000」のマダムに実際にお会いすることが出来ました。

当センターの現状として、高齢になって退会される方や就業が難しくなる方が増え、一抹の寂しさを感じていた中、真っ赤なお揃いのユニフォーム姿5名の女性委員からの具体的なお話はとても参考になり、大変刺激を受けてきた次第です。

人生百年時代の中で、会員の皆さん共に語り合い、自分が楽しいと思えるものを見つけて様々なことに挑戦し、生きがいや健康維持を目指して、豊かな人生を歩んで行きましょう。

